

大学における教養教育の授業内容とテキストと宿題【2】

～2015年度後期の実践から～

吉田 貴富

Contents, Textbooks and Assignments of a Course of Liberal Arts Education at University【2】

～ A case study of a course in the second semester of 2015 ～

YOSHIDA Takatomi

(Received January 5, 2017)

キーワード：大学、教養教育、美術、テキスト、宿題

はじめに

筆者は、大学における教養教育のあり方について、自己の実践を省察し改善と試行錯誤を重ねてきた¹⁾。本稿では、直近の実践を振り返り、授業内容とテキスト選定、及びテキストを授業本体や宿題にどのように生かしたかについてまとめ、考察する。

1. 授業の位置づけ

1-1 山口大学における共通教育

山口大学の共通教育は、2013年度実施分から全面的に改編された。2013年度から筆者が担当しているのは、系列で「一般教養」のうち「人文教養」「社会教養」「自然教養」「学際的教養」の中の「学際的教養」、その「学際的教養」の中に6つの分野があり、そのうちの「文化の継承と創造」の中の一科目である。

筆者担当分は、2012年度までは1セメスターの授業であったが、2013年度の全面改編からクォーター制が本格的に導入され、セメスターの半分であるクォーターの授業となった。

開設科目名は、2014年度までは「美術史」としてきたが、2015年度から「ArtのA」とした。2015年度、「ArtのA」は、前期後半クォーター2と後期後半クォーター4に開設された（授業者の希望ではなく、係による全学的な調整の結果）。本稿では後期後半クォーター4の実践を考察対象とする。

1-2 「ArtのA」

シラバスの「概要」に以下のように記した。

【内容】2014年度までの共通教育「美術史」をベースに、さらに緩やかにさらに幅広く造形表現を概観する。絵画作品を中心とする。必ずしも通史的な扱いはしない。

「ArtのA」とは、「アート」の「ア」、「ABC」の「A」、「あいうえお」の「あ」、即ちアートの基本の「き」という意味である。

ここには、単なる開設科目名の変更ではなく、前年度の反省が込められていた。2013年度まで1セメスター（授業14回、試験1回、計15回）で実施していた授業が、時間的に半分の1クォーターになったが、授業内容を精選・削減・圧縮しきれず、クォーター後半が詰め込みになってしまったことへの反省である。

2015年度後期クォーター4開講の「ArtのA」の受講者は、最終的に試験を受けるまで受講した者が、経済学部56名、工学部（応用化学）17名、計73名であった。

この授業は、2014年度まで前期クォーター1に開設されておりクラス指定（学生の側からは授業指定）であったが、2015年度は前期クォーター2と後期クォーター4に開設されており、前期クォーター2以降は、学生は、複数の授業科目が割り当てられ、その中から希望する授業を選択し、希望者が定員を超える授業については抽選が行われて、割り振られる。完全なクラス指定ではないが、全面改編以前のような選択の自由度はない。

2. テキスト

テキストの基本的な選定方針は2015年度前期と同じである。

筆者は、既存の書籍から選定したテキストを使用することになっている。その理由のひとつは、視覚的な情報に依るところが大きな分野であるため、Power Pointやプリントだけでなく、受講者の手元にある程度まとまった図版と文字情報がある方がよいと考えるからである。特に、近年この授業の教室として割り当てられている山口大学共通教育棟32番教室は縦に細長い教室であるため教室後方からはスクリーンへのプロジェクションが見にくい。図版をプリントにして補うことももちろん行うが、カラー図版が受講者の手元にあることが望ましい。理由のふたつめは、大学の教養教育を終えた後にも生涯学習の観点から受講者の手元に美術に関するある程度まとまった書籍が1冊残ることは、一社会人の教養の一部として、また卒業後も美術との接点や美術の窓として大切なことであると考えからである。もちろん受講者の経済的負担は考慮して定価が千円前後であることを条件としている。

美術の内容論として筆者自身が執筆した書籍は無い。したがって、市販の書籍から選定することになる。

テキストの選定に当たって考慮することは、まず授業内容ありきということである。授業者がこれまで教養教育「美術史」として実践してきた内容が基本となっており、それをシラバスに記したように緩やかにしようとはしたが、あくまでも授業者が構想する授業内容に合致し利用しやすいということを大前提とした。

2015年度前期実施分のテキスト選定の基準・条件は以下のとおりであった。

- a. 授業者が構想する授業内容に合致し利用しやすいこと
- b. 文庫本または新書本であること
- c. 価格が1000円以内であること
- d. 図版が豊富であり、可能な限りカラーで鮮明であること
- e. 出版年が比較的新しいこと
- f. ネット上などでの評価が高いこと

2015年度後期実施分については、条件dを十分に満たさないことは承知の上で若桑みどり『怖い絵』角川書房（角川文庫）2013年7月、定価本体680円、とした。この本は2007年7月に朝日出版社から刊行された単行本『怖い絵』に加筆訂正し、新たに2作品を書き加えて文庫化したものである。文庫化によって文字や図版は小さくなったが、紙質は良くなりしわや開き癖が付きにくく、図版の鮮明さは向上し、単行本でページをまたいでいた図版が1ページに収められ見やすくなった。

2015年度のテキストについては、2014年度後半から選定に取りかかり、複数の候補の中から絞っていった。前期は木村泰司『名画は嘘をつく』大和書房（ビジュアルだいわ文庫）、2014年11月、定価本体740円、としたが、『怖い絵』も候補に上っていた。『名画は嘘をつく』と『怖い絵』は対照的である。前者はカラー図版が多く各作品に添えられた文章が短いのに対して、後者は図版が少なく文章が主である。文章が長い方が当然、意味内容が豊富で深くおもしろくなる。『怖い絵』は、以前にもテキストとして使用することを考えたことがあるが、7回の授業で受講者の購入に見合うだけテキスト内容を扱いきれるという見通しが立たなかったため、テキストとして用いず、部分的に印刷・配付して使用してきた。

『怖い絵』には、この授業で扱いたい内容そのもの、あるいは扱いたい内容に関連する情報が多く含まれていたことも選定の大きな理由である。即ち条件aを満たしているということである。

総合的に検討した結果、上記の条件のうち条件d以外を満たしている『怖い絵』をテキストとした。

3. 授業内容

以下に、実践した全7回の授業内容の概要を記す。キーワードのみとした。

2015年度後期の実践から、授業中にテキストを読んで記入するワークシートを作成して用いた。ワークシートと宿題を資料1～8として文末に掲げる。

【1】2015.12.2

シラバス紹介。授業ルール等。「みる・かんがえる・はなす・きく」対話型鑑賞(1) ジョルジュ・ド・ラ・トゥール『いかさま師』(テキスト作品1)。対話型鑑賞(2) エドガー・ドガ『エトワール、または舞台の踊り子』(テキスト作品2)。テキスト販売。

宿題【資料1】テキスト作品1、2

【2】2015.12.9

「みる・かんがえる・はなす・きく」対話型鑑賞(3) 松井冬子『終極にある異体の散在』。ポッティチェリ『ナススタジオ・デリ・オネスティの物語』(テキスト作品8)。ワークシート【資料2】。異時同図。ミケランジェロ。『伴大納言絵巻』。玉虫厨子。松井冬子のポッティチェリからの引用。創造とは、無から有を生むことではない。村上隆。

宿題【資料3】テキスト作品16

【3】2015.12.16

単位とは。村上隆。五百羅漢。狩野一信。山口県立美術館。「My name is …問題」。論理的に考えるということ。国際化とアイデンティティ。「みる・かんがえる・はなす・きく」対話型鑑賞(4) 石田徹也『囚人』。対話型鑑賞(5) ゴヤ『我が子を喰らうサトゥルヌス』(テキスト作品10)。ワークシート【資料4】。知は更新する。『巨人』の作者はゴヤの弟子という説。

宿題なし。

【4】2016.1.6

サトゥルヌスは「飲み込んだ」。ゴヤから引用したピカソ。高階秀爾『ピカソ 剽窃の論理』ちくま学芸文庫、1995年、絶版。ゴヤ。ジョルジョーネ。ティツィアーノ。マネ。養老孟司「教養とは」。理系と文系。美術の学際性。「みる・かんがえる・はなす・きく」対話型鑑賞(6) ブロンズイーノ『愛の寓意』(テキスト作品5)。パリスの審判。持物・アトリビュート。ジェイムズ・ホール『西洋美術解説事典』。イコノグラフィー・図像学。ルネサンス、マニエリスム、バロック、ロココ。

宿題【資料5】テキスト作品5

【5】2016.1.13

「みる・かんがえる・はなす・きく」対話型鑑賞(7) 森村泰昌『肖像・双子』。マネ。ゴッホ『自画像』(テキスト作品20)。藤田嗣治。森村泰昌「レオナルド・ダ・ヴィンチと少年犯罪」。若桑みどり「脳がいい人」。グリュネヴァルト『イーゼンハイムの祭壇画』(テキスト作品22)。ワークシート

【資料6】

宿題【資料7】テキスト作品3

【6】2016.1.20

リアリティ。森村泰昌。『スター・ウォーズ』。ティントレット『受胎告知』(テキスト作品3)。フラ・アンジェリコ。ルネサンスからマニエリスムへ。時代様式(ロマネスク、ゴシック、ルネサンス、マニエリスム、バロック、ロココ)。構図。北斎。谷川俊太郎「創造とは」。若桑みどり。イコノグラフィー・図像学、イコノロジー・図像解釈学。聖セバスティアヌスの殉教。Jim Denevan。ナスカの地上絵。菊池聡『超常現象をなぜ信じるのか』講談社ブルーバックス。

宿題【資料8】テキスト作品15、12、11、19、4、21

【7】2016.1.27

山口県出身のアーティスト吉村芳生。ホルバイン『ヘンリー八世像』(テキスト作品15)。ホルバイン

『大使たち』。錯視、だまし絵（トロンプ・ルイユ）、トリック・アート。視覚の不思議。『超常現象をなぜ信じるのか』。多義図形、ダブル・イメージ。ダリ。視覚の恒常性。話題の「ドレスの色」問題。その考え方は正しいか。フランシス・ベーコン『ベラスケス〈教皇インノケンティウス十世像〉による習作』（テキスト作品11）。エイゼンシュテイン『戦艦ポチョムキン』。ポチョムキン公爵。エカテリーナ2世。エルミタージュ美術館。モンタージュ。イリヤ・レーピン『イワン雷帝とその息子』（テキスト作品19）。エイゼンシュテイン『イワン雷帝』。
宿題なし。

4. 宿題とワークシート

内容は、テキストや資料を読んで要点を把握することが主である。スマートフォンなどを用いて調べる内容もあり、自分の頭でしっかり考える内容もある。予習的な内容もあれば、復習的な内容もある。

昨今、「アクティヴ・ラーニング」と喧しい。要は学習者がより主体的・能動的に学習活動を行うよう授業者が工夫するだけである。日本中の意識の高い教育者は以前から実践してきたことである。筆者がこの授業で行なっている「発問」も「対話型鑑賞」も「挙手による自主発言」も「指名や機械的な順番による強制発言」も言わばアクティヴ・ラーニングである。筆者は、共通教育ではほとんど行っていないが、教育学部の専門科目の授業においてはグループ学習によるいわゆる「協同的な学習」を積極的に取り入れている。これもアクティヴ・ラーニングである。

「反転授業」も新しいことのように喧伝されているが、要は予習を課題としているだけである。筆者の宿題やワークシートの内容にも予習を意図したものがある。

5. 考察

2015年度前期の実践が、内容の精選・削減・圧縮が不十分だったため、例年同様、第6回と第7回の授業内容が過多となってしまった。その反省に立ち、後期のこの実践では、思い切って内容を削減した。その結果19世紀以降の美術史的なつながりは押さえられなかったが、学習のペースに無理は無かった。

教育学部の専門科目「芸術教育論」において筆者が毎年取り上げているフランシス・ベーコンの絵画作品とそのイメージの源泉のひとつであるエイゼンシュテイン『戦艦ポチョムキン』、および『イワン雷帝』を、テキストと関連させて、部分ではあるが視聴させることもできた。思い切った内容削減によって得られた時間を用いての映像作品視聴である。やはり限られた時間であるから、授業者が割り切って内容を取捨選択することが必要である。また、フランシス・ベーコン『ベラスケス〈教皇インノケンティウス十世像〉による習作』（テキスト作品11）とイリヤ・レーピン『イワン雷帝とその息子』（テキスト作品19）がテキストに掲載されていることが、エイゼンシュテインに繋げるのに好都合であった。

今回テキストとした『怖い絵』には22の画家（作品）が作品1から作品22の形でトピックとして取り上げられている。それらのうち今回の授業で取り上げたり触れたりしたトピックは作品1、2、3、4、5、8、10、11、12、15、16、19、21、22である。全22の画家（作品）のうち14の画家（作品）に触れることができたのだから、テキストをできるだけ活用するという目標は達成できたと考えている。

後掲している宿題とワークシートを見ていただければ、テキストから美術や美術史に関する要点を抽出して学習者に意識させていることがわかるはずである。

宿題に関しては、内容、量、質ともに適切であったと思う。授業本体との関連・文脈も齟齬が無い。

ワークシートについては、ひとつのワークシートについて授業時間内で20～30分の時間をかけて取り組ませた。1コマの授業時間は90分であるが、学習者の集中力は15分程度しか持続しないとも言われる。90分の授業の中に15～30分程度の異なる学習形態を組み込むことが効果的である。この授業では、講義、対話型鑑賞（自主発言）、そしてワークシートが基本的な学習形態である。また、宿題は本人がやったという保障がない。自分で取り組まずに友人の結果だけを写して提出することも可能である²⁾。ワークシートは授業中に必ず本人が取り組む。この点においても意義のある学習だと言える。

今回、初めて文章が主体の書籍をテキストとした。近年、大学生の活字離れが一層進んでいる³⁾と言われ、あるいは日本の子どもたちの読解力が低下した⁴⁾とも言われる。スマートフォンの普及によりこの傾

向は今後続くと予想される。このような時代であるからこそ、大学生に本を持たせ、ある程度まとまった文章を読ませることには大いに意味があると言えるだろう。

おわりに

本稿執筆時、2016年度後期クォーター4の「A r tのA」が進行中である。テキストは『怖い絵』の続編『怖い絵 泣く女篇』を使用している。この実践については稿を改めて執筆する予定である。

註

- 1) 吉田貴富「共通教育における美術教育に関する一考察(2) — 1996年度共通教育科目『20世紀美術と教育』の実践を通して —」山口大学教育学部研究論叢第46巻第3部、1996年
吉田貴富「抽象画理解のための授業の試み — 1996年度共通教育科目『20世紀美術と教育』における実践から —」山口大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要第8号、1997年
吉田貴富「大学における教養教育としての美術教育のあり方について(1) — インタラクティブな授業の試み —」大学美術教育学会誌第30号、1998年
吉田貴富「大学における教養教育としての美術教育の在り方について(2) — 『発問活用型』及び『対話的ギャラリートーク型』の鑑賞活動を取り入れた美術史の授業の試み—」大学美術教育学会誌第38号、2006年
吉田貴富「大学における教養教育としての美術教育の在り方について(3) — 受講者の意見が授業内容へ及ぼす広がり と深化—」大学美術教育学会誌第39号、2007年
吉田貴富「大学における教養教育の授業内容とテキストと宿題【1】～ 2015年度前期の実践から ～」山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第41号、2016年
- 2) 山口大学の全学のFD研修会において「授業評価において宿題への配点を大きくしないのが望ましい」と聞いたことがある。その理由が「本人がやったという保障が無いから」であった。合理的な理由であると思うので、筆者も評価をその方針で行っている。この授業の評価における提出物の評点の割合は30%とした。
- 3) 全国大学生生活協同組合連合会「第51回学生生活実態調査の概要報告」(2015年10～11月実施)に「読書時間『0』は45.2%に。平均時間も短縮」とある。
- 4) OECDの2015年実施の学習到達度調査(PISA)の結果、日本の平均点は「読解力」が前回2012年の4位から8位に下がった。

2015 後期 Art の A 【1】 宿題

2015. 12. 2. (水)

____年生 _____学部 氏名_____

★返却しません。 コピーを提出してください。

★次回【2】12月9日予定の授業開始時に提出。

課題：テキスト 34 ページまでを読んで、() 内に適語を記入せよ。テキストに書いてないこともある。わからなければ調べなさい。

◆ラ・トゥール『いかさま師』について

この絵は、描画材料の種類で分類すれば() であり、サイズは縦() × 横() cm であり、() 美術館に所蔵されている。この美術館がある国は() であり、その首都() にこの美術館はある。

画面向かって右の坊ちゃんがどうして野獣の巣窟に迷い込んだか、最も可能性が高いのは白い肌の女性が() で、彼女に誘惑された、という筋書きだろう。

この作品と同じテーマの絵はラ・トゥールの前に() が描いている。

ジョルジュ・ド・ラトゥールの生没年は() 年～() 年である。彼はルイ() 世に召し抱えられていた。歴史に埋没した理由の可能性のひとつは、ルイ() 世の代になって飽きられたことである。

◆ドガ『エトワール、または舞台の踊り子』について

この絵の描画材料は() である。オルセー美術館は上記の美術館と同じ都市にある。オルセー美術館の建物は、元は() の建物である。

エトワールとは() を意味するフランス語で、ここではプリマ・バレリーナを指す。プリマとは() という意味である。

エドガー・ドガの生没年は() 年～() 年である。ドガは一応() 派の画家とされる。

バレエの歴史を振り返ってみよう。誕生したのは() 期のイタリアで、当時は() に近い形だったらしい。のちにフランス宮廷へもたらされ発展するが、それにはルイ() 世の関与が大きい。

こうして 17 世紀後半、劇場に女性の踊り手が登場する。「17 世紀」とは() 年から() 年である。

19 世紀に入ってバレエの制服たる() が使用され始め、() を履き、つま先で踊る形も確立した。

しかし、ドガが踊り子を描き始めた頃は、すでにパリのバレエ界は墮落していた。劇場、とりわけオペラやバレエを上演するオペラ座は、「オペラ座は上流階級の男たちのための()」(当時の批評家の言葉)と言われるまでになっていた。

この絵の中で背後の書割りにたたずむ男はエトワールの() である。

____年生 _____学部 氏名_____

★授業終了時に提出してもらいます。

課題：テキスト 作品8を読んで、()内に適語を記入せよ。テキストに書いてないこともある。わからなければ調べなさい。

- レオナルド・ダ・ヴィンチの生没年は1452年～1519年である。
ボッティチェリの生没年は()年～()年である。
- イタリア・ルネサンス絵画は都市によって著しい特徴を持っている。ヴェネチア派はジョルジョーネ、ティツィアーノ、ティントレットらであり、ボッティチェリやレオナルド・ダ・ヴィンチらは()派である。
- ボッティチェリのパトロンは()家である。
- テキスト p.87 のカラー図版を見よ。この絵は板に描かれており、サイズは縦()×横()cmである。描画材料・技法は()である。
絵の具は、顔料を画面に固着させなければならない。固着させるものがメディウム(バインダー)である。メディウムがアラビアゴムならば水彩絵の具、乾性油(リンシードやポピー)ならば油絵の具、木工ボンドのようなエマルジョンならばアクリル絵の具である。テンペラのメディウムには基本的に()を用いる。
- プラド美術館は(国名：)の(都市名：)にある。
- 第1パネル。赤いホーズの若者は()人描かれている。
- 第2パネル。2匹の犬が食べているのは()である。
- 第3パネル。平和な()に、いきなり割り込むリアルな()。
- 第4パネル。()式の場面である。
- ナスタジオ・デリ・オネスティとは()という意味であり、(著者名：)の『()』という、10人が1話ずつ×10日＝100話からなる小説の5日目第8話の主人公である。
- 第1パネルと第2パネルには、日本の絵巻物と同じように、ひとつの絵に時間の経過が表現されている。これを()と言う。

2015後期 ArtのA【2】 宿題

2015.12.9. (水)

____年生 _____学部 氏名_____

★返却しません。 コピーを提出してください。

★次回【3】12月16日予定の授業開始時に提出。

課題：テキスト 作品16を読んで、() 内に適語を記入せよ。テキストに書いてないこと
 ともある。わからなければ調べなさい。

- 老婆を描いているジョルジョーネだが、『眠れる ()』という、若い女性の裸体を美しく描いている。
- ジョルジョーネの活躍した () 期は、老女の図が驚くほど大量生産されている。
- ルネサンスは、人間讃歌・反中世という柱の他に、() ・ () の古代文化復興というもう一本の柱があった。
- ジョルジョーネの生没年は() 年～() 年である。ジョルジョーネは、『眠れるヴィーナス』を完成させたと言われている () の師匠である。
- 「幸せな家庭はどれも同様だが、不幸せな家庭はそれぞれに不幸せである」とは、文豪 () の『()』にある一文である。
- スケープゴートとは生贄のヤギ、贖罪のヤギのことだが、今日一般的に () という意味で用いられる。
- 美女は二度 () 。
- 「外見というものは、一番ひどい偽りかもしれない」と () は言った。
- クラナッハの『若返りの泉』という作品を調べて、下の枠をキャンヴァスとして、どのような絵か、およそを線描きなさい。模写レベルでなくて良い。



____年生 _____学部 _____氏名_____

★授業終了時に提出してもらいます。

できるだけ正解で埋めて下さい。

課題：テキスト 作品 10 を読んで、() 内に適語を記入せよ。テキストに書いてないこともある。わからなければ調べなさい。漢字で書くべきところは漢字で書くこと。

- 巨神⑩サトゥルヌス (=⑨クロノス) とは、ギリシャ・ローマ神話における () であり、また「()」をつかさどる神である。絵画では () を持つ () の姿で描かれることが多い。したがって「時の ()」と呼ばれる。 ⑩はローマ名、⑨はギリシャ名。
- サトゥルヌスの母親は () であり、父親は () である。
- サトゥルヌスは父を殺した。父は最期に「おまえもまた自分の子どもに殺されるだろう」と予言した。サトゥルヌスはこの予言に怯え、逃れるために () 人の子どもたちを飲み込んだ。それでも予言どおりとなり、サトゥルヌスは6番目の子ども (=ゼウス) に殺される。
- ゴヤのこの作品と同名の作品がテキスト p.115 に掲載されている。作者はバロックの巨匠 () である。
- ゴヤは (国名:) の画家であり、生没年は () 年 ~ () 年である。
- ルーベンスは (国名:) の画家であり、生没年は () 年 ~ () 年である。
- ゴヤは、画家として成功し、宮廷画家でもあったが、46歳のときに原因不明の高熱により () を完全に失った。このことから、72歳のゴヤが閉じこもったマドリッド郊外の別荘を「() の家」と呼ぶ。その家の壁に描かれていた絵のうちの一枚がこの作品である。
- スペインは、フランスの () 軍の侵攻によって、1808年から1814年の長きにわたり蹂躪されつくした。
- 「⑩ユピテル (=⑨ゼウス) は⑩サトゥルヌス (=⑨クロノス) に兄弟たちを吐き出させた」というのが神話である。言葉で話を聴くだけならば「飲み込んだ」「吐き出させた」がなんとなく想像できるが、ゴヤやルーベンスのこれらの絵ではサトゥルヌスは我が子を嘔みちぎっている。これでは吐き出させても元には戻らない。(〜;)リアルに描くことが良いことなのかどうか・・・神話への忠実さよりも、生身の人間の親子関係への警鐘が優先したのだろうか。(by 吉田貴富)

_____学部 氏名_____

★返却しません。 コピーを提出してください。

★次回【5】1月13日予定の授業開始時に提出。

課題：テキスト 作品5を読んで、()内に適語を記入せよ。テキストに書いてないこともある。わからなければ調べなさい。漢字のものは漢字で記入すること。

■16世紀に流行した寓意画においては、画家が難解で凝った()や()を考案し、鑑賞者はその解説に挑戦するといった賞翫方法が、宮廷社会での知的遊戯であった。

■この作品5のサイズは縦()×横()cmである。

■マニエリスムとは、()から()への移行期である。ルネサンス様式は調和的な美を特徴としていたが、マニエリスム様式は、凝った()、()んだ人体、()なポーズといった誇張された表現を特徴とする。この作品に、その特徴がよく表れている。

■(ギ)はギリシャ名、(ロ)はローマ名、(英)は英語名。

中央にいる主人公ふたりは(ギ)アフロディテ、(ロ)ウェヌス、

(英)()と、

(ギ)エロス、(ロ)クピド or アモル、(英)()

であるのはまちがいない。

■ヴィーナスが持っているのは金のリンゴである。「()の審判」以来、黄金のリンゴはヴィーナスと結びついている。このことを図像学(イコノグラフィ)では、リンゴはヴィーナスの(日本語)、←読みかた、英語由来のカタカナ)である、と言う。「パリスの審判」における三美神は()と()と()であり、このうち最も美しい者としてパリスが選んだのは()である。

■画面右の笑っている男の子が持っているのは()である。これもヴィーナスの持物・アトリビュートである。だから中央の女性がヴィーナスであると言える。

■↑その男の子とヴィーナスの間に緑色のドレスを着たかわいこちゃんがいる・・・が、手が変だ！胴体も変だ！この少女と仮面は()を表す。

■画面右上の髭の老人は()である。なぜなら、彼の肩と背中に()と()が見えるからである。左上の横顔(仮面みたい)の女性は()の擬人像である。時が真理のヴェールをはぐのだ。その下で髪をかきむしっている老婆は()である。

_____学部 氏名_____

★授業終了時に提出してもらいます。
できるだけ正解で埋めて下さい。

課題：テキスト 作品 22 を読んで、() 内に適語を記入せよ。テキストに書いてないことは無い。漢字で書くべきところは漢字で書くこと。

■グリューネヴァルトの『イーゼンハイムの祭壇画』は()年頃の作品である。これまでに見てきたテキストの作品8ボッティチェリ『ナススタジオ・デリ・オネスティの物語』が()年、作品5ブロンツィーノ『愛の寓意』が()年頃の作品であるから、その中間の時期にあたる。ただし、ボッティチェリとブロンツィーノが(国名：)人であるのに対してグリューネヴァルトは(国名：)人である。

■1515年。この2年後1517年には()が『95箇条の論題(意見書)』を発表し宗教改革が始まった。また、4年後の1519年には、()は世界周航に出発した。1519年はレオナルド・ダ・ヴィンチが亡くなった年でもある。
1515年。イタリアではレオナルド・ダ・ヴィンチと()と()という三巨匠が活躍する(時代名：)であったが、ドイツなどの北国ではまだ(時代名：)から抜け出せないでいた。デューラーは北方ルネサンスの画家である。

■中世三大疫病といえば、()、()病)、()病)である。グリューネヴァルトはこの中の()で死んだと言われている。

■聖アントニウス病は、科学的には、麦角菌に感染した()で作られたパンを食べることによって発症した。このことがわかったのは()世紀。

■グリューネヴァルトの描写は、ルネサンスの三巨匠に比べれば写実性はやや劣るものの、その細密さと迫真性は、当時の人々にとって、今日、我々が当たり前のように接するコンピュータを駆使したリアルな映像や画像と同等、あるいはそれ以上の存在であったに違いない。見た者は、驚き、感動し、時に陶酔する。
小説『フランダースの犬』の主人公ネロが大好きであった()作の『キリスト昇架』も同様の傑作である。ネロはその絵の前で息を引き取る。

■テキスト掲載の図版は『イーゼンハイムの祭壇画』の第1面である。祭壇画は、観音開きによって下のパネルが現れる。この多翼祭壇画は絵だけで()枚もある。現在、()された状態で(国名：)のウンターリンデン美術館に展示されている。グリューネヴァルトはこの祭壇画を、聖アントニウス修道会から依頼され約()年かけて描いた。

_____学部 氏名_____

★返却しません。 コピーを提出してください。

★次回【6】1月20日予定の授業開始時に提出。

課題：テキスト 作品3を読んで、()内に適語を記入せよ。テキストに書いてないこともある。わからなければ調べなさい。漢字のものは漢字で記入すること。

■この作品3のサイズは縦()×横()cmである。

■ヨーロッパでもっとも数多く絵画や像の主題となったのは、()、次いで()、三番目が()と言われている。

■「受胎告知」とは、大天使()による処女()への懐妊のお告げのことである。

■受胎告知を描くには、いくつかの約束事があった。必須三点は、大天使(A)、聖母()、そして精霊の()だ。Aの背には大きな()がある。聖母の無垢の象徴として()の花、また彼女が祭司の衣服を織っていたの言い伝えをふまえての()、あるいは毛糸を入れた籠が置かれることもある。天使が訪れた時、マリアは読書中だったので、ページを開いた()も描かれる。

■想像してみよう。目の前に突然天使が現れるだけでも大変なことである。さらに天使は、婚約中の乙女に、あなたは妊娠している、と言う。(「□□」;)!! したがって、この受胎告知は三段階になっている。①天使の来訪に()くマリア。②受胎したと告げられて()、ないし怯えるマリア。そして③すべてを()マリア。

フラ・アンジェリコのこの『受胎告知』は、上記①②③で言えば(記号)の場面である。フラ・アンジェリコのこの『受胎告知』は()年頃の作品である。画面左端には、エデンの園を追放される()と()が描かれている。奇蹟でさえ、この明るい()した世界では、ひとつの()に組み込まれている。いかにもルネサンス的な絵画である。

■ティントレットは()派の画家である。作品16 ジョルジョーネの助手であったティツィアーノの弟子である。作品3は、上記①②③で言えば(記号)の場面である。アンジェリコの『受胎告知』が「静」とすれば、ティントレットのは「()」。ガブリエルとともにドドドッとなだれ込んでいる天使たちの描写は、ヒッチコック監督の映画『()』を思い起こさせる(機会があれば観てみてください)。さらには、現代の映画のCG映像のようでもある。当時の人々にとっては、我々が感じる以上にダイナミックでリアルに感じられたことであろう。画面左端には、マリアの許嫁、大工()が描かれている。ティントレットがこの絵に着手したのは()年。日本で()の変が起きた年である。

2015後期 ArtのA【6】 宿題

2016.1.20. (水)

_____学部 氏名_____

★返却しません。 コピーを提出してください。

★次回【7】1月27日予定の授業開始時に提出。

★このまま左右合わせてA3でコピー。

課題1：講談社ブルーバックス

菊池聡

『超常現象をなぜ信じるのか』

1998/09/20

第4章「その考え方は正しいのだろうか？」より

- ・ 片面に数字、もう片面にはローマ字の書かれているカードがあります。
- ・ そして「もし、カードの片面にローマ字の母音を書いてあれば、その裏面の数字は偶数である」というルールがあるとします。
- ・ ここにある四枚のカードでは、このルールが成立しているかどうかを確かめてみようと思います。そのためには最小限どのカードをめくってみればよいでしょうか。
- ・ カードは何枚めくってもよいのですが、できるだけ少ない枚数をめくってルールを確認してください。
- ・ あなたはどのカードをめくりますか？



(1) めくるカード

(2) 理由

課題2：テキスト『怖い絵』を読んで以下の文の（ ）に適語を記入しなさい。調べなければわからないものもある。

■作品15：ホルバイン『ヘンリー八世像』

イングランド王ヘンリー8世は生涯に（ ）人の妻をめとった。

♥キャサリン・オブ・アラゴンとの子どもが、後の（ ）で、

♥アン・ブーリンとの子どもが、後の（ ）で、

♥ジェーン・シーモアとの子どもが、後の（ ）である。

ホルバインの『大使たち』の画面下に描かれている細長いものは、「ある物」が歪められて描かれたものである。この技法をトロンプ・ルイユ（だまし絵）、中でもこの歪めて描く技法を（ ）と言う。

「常に危険が迫っていること、常に戦々恐々としている状況、あるいはそのような状況をもたらすもの」をたとえて「（ ）の剣」と言う。

■作品12：アルテミジア・ジェンティレスキ『ホロフェルネスの首を斬るユーディト』

アルテミジアは（○で囲む： 男性 女性 ）である。

この作品が描かれたのは（ ）年である。17世紀の時代様式を（ ）という。元はポルトガル語「歪んだ真珠」という意味である。

同じ主題のp. 141の作品をバロックの巨匠（ ）が描いており、アルテミジアはこれに倣ったが、アルテミジアの作品の方がリアルである。

■作品11：ベーコン『ベラスケス《教皇インノケンティウス十世像》による習作』

この絵には下敷きになったイメージが2つある。テキストではなぜかベラスケスの作品についてしか述べられていないが、もうひとつ重要なイメージは、ソ連の映画監督エイゼンシュテインの1925年の映画『戦艦（ ）』の第4章「オデッサの階段」の最後に近い場面でアップになる女性の顔である。

ベラスケスは、バロック期のスペインの巨匠である。

■作品19：レーピン『イワン雷帝とその息子』

ロシア・（ ）絵画の巨匠レーピンの作である。レーピンの作品としては、他に『ヴォルガの船曳き』などが有名である。

イワン雷帝とはイワン（ ）世のことである。

イワン雷帝の生没年は日本の武将（ ）のそれとほぼ重なる。

映画『戦艦ポチョムキン』（1925年）で有名なソ連の映画監督セルゲイ・（ ）は、のちに『イワン雷帝』（1944～1946年）を制作し発表している。次回（最終回）、これらの映画を少しみてみましょう。

■時代様式は18世紀のロココまで。18世紀末からは近代化に伴って「ismの時代」

となる。作品4ダヴィッドやアングルは（ ）主義、作品21ジェリ

コーやドラクロワは（ ）主義の画家である。ism（主義）は、反

発するように登場し、同時代に共存する。新古典主義はロココへの反動。新古典主義に対してロマン主義。ロマン主義に対してはクールベらの写実主義、という具合。